

教育研究業績書

2019年5月 1日

氏名 小藺 崇明

学位 歴史学博士

研究分野	研究内容のキーワード	
歴史学	日本近現代史・災害史・植民地研究・障害者研究・関東大震災	
主要担当授業科目	房総文化演習（歴史）、古文書学入門、現代日本の歴史	
教育上の実績に関する事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
①法政大学附属第二高等学校の特別講義・歴史史跡現地見学のガイド	平成20、22、23、25年度	法政大学附属第二高等学校の高校3年生を対象に、各年度1回講義。いずれも進路が確定した生徒に大学のプレ講義として授業を行った。テーマは関東大震災であり、資料の分析や解釈の仕方を講義した。
②東京成徳大学「房総の文化」	平成20～平成27年度	東京成徳大学人文学部伝統文化学科2年次必修授業「房総の文化」外部特別講師として各年1回講義。千葉県における関東大震災の歴史を講義した。大学周辺の歴史（地域史）を重視して、学生にイメージしやすく、身近な問題としてとらえられるように心がけた。そのために写真、地図、図版等多く取り入れた。
③東京成徳大学伝統文化資料室企画展「戦時下の〈日常〉と東京大空襲の記憶～三人は確かにそこにいた～」	平成29年3月10日～5月25日	東京成徳大学人文学部日本伝統文化学科の学生有志6人と空襲体験者3人のインタビューをおこない、それをもとに展示を行った。空襲体験のみならず、戦時下の暮らしに注目した展示になった。2016年4月26日『朝日新聞』（東京版）に本企画展が掲載された。
2 作成した教科書・教材 「地域における朝鮮人虐殺事件の記憶」	平成21年8月1日	千葉県歴史教育者協議会会誌『子どもが主役になる社会科』第40号に発表した。八千代市内にある関東大震災関連史跡として存在する各地域の慰霊碑の場所や建てられた経緯等を地図とともに解説した。教員のガイドブックを目指して作成した。
3 当該教員の教育上の実績に関する大学等の評価 東京成徳大学学長賞	平成31年4月1日	2018年度の教育・大学への貢献が認められ、東京成徳大学学長賞を受賞した。
4 その他 関東大震災スタディーツアーのガイド	平成21年度～現在に至る	平成20年度より「千葉県における関東大震災朝鮮人犠牲者追悼・調査実行委員会」の会員になり、翌年度から毎年の慰霊祭、ガイドの依頼を受けた時に、スタディーツアーのガイドを行う。毎年9月の慰霊祭に組み込まれるガイド以外では下記のガイドを行った。 平成24年2月27日に法政第二高等学校の教員に頼まれ、同校

		<p>の生徒を習志野市にある軍隊関連史跡を連れて歩き、そのガイドをした。</p> <p>平成 24 年 8 月には歴史教育者協議会の全国大会があり現地ガイドとして船橋市・習志野市・八千代市の歴史散歩を案内した。</p>
職務上の実績に関する事項	年月日	概要
①東京都復興記念館収蔵品データベース作成	平成 26 年度	東京都復興記念館に収蔵される関東大震災関係資料のデータベースを作成し、デジタルアーカイブスとして HP で公開した。
②東京都復興記念館館内ガイドマニュアルを作成	平成 26 年度	東京都復興記念館の展示ガイドを職員が行えるように、ガイドのマニュアルを作成した。現在は団体ガイドを HP 上の申請書を提出することで行っている。
③東京都復興記念館・春休み「横網町公園クイズ」企画責任者	平成 27 年 3 月中	東京都復興記念館の展示資料を中心に、小学生対象のクイズを作り、春休みに実施した。
④東京都復興記念館・夏休み「横網町公園クイズ」企画責任者	平成 27 年 7 月 28 日～8 月 30 日	東京都復興記念館の展示資料を中心に、小学生対象のクイズを作り、夏休みに実施した。
⑤東京都復興記念館夏の特別展「わたしの空襲体験」企画責任者	平成 27 年 8 月 11 日～9 月 13 日	本企画は空襲体験談の作文を募集し、パネル化して展示したものである。個人の空襲体験からあらためて空襲とは何かを考える企画である。
⑥東京大空襲戦災資料センター夏休みの特別企画「みんなで学び伝えよう、東京大空襲」企画責任者	平成 27 年 8 月 13～16 日	本企画では映像、体験者の話、紙芝居、リレー朗読、クイズの催しを行った。通常業務でも頻繁に小学生から大学生、年配者を対象にガイドを行っている。
⑦東京大空襲戦災資料センター特別展「ぼくと戦争-小池仁戦争体験画展」企画責任者	平成 28 年 2 月 24 日～4 月 10 日	昭和 5 年に川崎で生まれて、戦時下の暮らしを体験された小池仁さんは、平成 27 年 7 月に『戦争をしてはならない本当の理由-小池仁戦争体験画・文集』を自費出版した。本企画は、その本の挿絵原画と東京大空襲の大型絵画（油絵）を展示した。
⑧東京都復興記念館春の特別展「日本画家高増径草の描いた遭難記録」企画責任者	平成 28 年 3 月 1 日～4 月 3 日	本企画は、関東大震災の惨状を描いた高増径草による震災絵巻を公開した。高増は東京聾啞学校の師範科に在籍していた時に被災するが、その惨状をリアルに描いた。ろう者としての災害時の苦難を中心に展示を充実させた。
⑨東京都復興記念館収蔵品データベース作成	平成 27 年度	東京都復興記念館に収蔵される、未公開の関東大震災関係資料及び東京大空襲関係資料のデータベースを作成し、デジタルアーカイブスとして HP で公開した。
⑩国立歴史民俗博物館軍事郵便データベースの作成に貢献	平成 27 年度	国立歴史民俗博物館に収蔵される軍事郵便に関して、調査員としてデータベース作成に従事。

著書・学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概要
<p>(著書)</p> <p>1 田中正敬・専修大学 関東大震災史研究会編 『地域に学ぶ関東大震災 —千葉県における朝鮮人 虐殺 その解明・追悼は いかになされたか—』</p>	共著	平成 24 年 8 月	日本経済評論社	<p>本書は関東大震災下における千葉県の歴史をほりおこした市民団体の活動の実態をえがいた。 執筆部分は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「第 1 部 フィールドワークについて」(2～4 頁) では、市民団体の聞き取り調査の概要を記した。 ・「第 2 章 八千代市高津・大和田新田・萱田を歩く」(31～60 頁) では同地の調査の成果を提示した。 ・「第 3 章 軍郷習志野を歩く」(61～96 頁) では同地の調査の成果を提示した。 ・「第 6 章 千葉県における関東大震災と朝鮮人犠牲者追悼・調査実行委員会の活動Ⅱ—遺骨の発掘と慰霊碑建立」(165～189 頁) では、1983 年～1999 年における市民団体の活動の実態を明らかにした。 ・「巻末 年表 1983 年～2009 年」(248～265 頁) を作成した。 <p>なお、本書の編集委員として参加した。</p>
<p>2 関東大震災 90 周年記念行事実行委員会編『関東大震災 記憶の継承—歴史・地域・運動から現在を問う—』</p>	共著	平成 26 年 10 月	日本経済評論社	<p>本書は関東大震災の 90 周年を期に出された研究書である。 執筆部分は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「第 11 章 記録映画『隠された爪跡』と『払い下げられた朝鮮人』呉充功監督と朝鮮人虐殺ドキュメンタリー映画」(165～178 頁) を執筆し、在日朝鮮人 2 世の監督によるドキュメンタリー映画について、監督のライフストーリーとともに映画を分析した。 ・「第 12 章 関東大震災下に「誤殺」されたろう者について」(191～208 頁) を執筆し、関東大震災下で虐殺された聴覚障害者の実態分析をおこなった。 ・「ブックガイド 4」(257、258 頁) も執筆した。 <p>なお、本書の編集委員として参加した。</p>

3 東京都慰霊協会住吉泰男・小菌崇明編『わたしの空襲体験とその後』	共著	平成28年2月	東京都慰霊協会	本書は、東京都復興記念館夏の特別展「わたしの空襲体験」(平成27年8月11日～9月13日)時に募集した空襲体験談の作文をもとに編んだものである。執筆部分は以下の通り。 ・「東京大空襲について」(10、11頁)。 ・「疎開と戦災孤児について」(52、53頁)。 ・「戦後の暮らしについて」(74頁)
4 小菌崇明・渡辺哲郎・和田悠編『子どもとつくる平和の教室』	共著	平成31年1月	はるか書房	本書は、小・中・高・大学における歴史教育の授業実践集である。執筆部分は以下の通り。 ・「大学生が空襲体験を学び、伝える」(235～252頁)では、東京成徳大学の学生と行った、空襲体験者のインタビューをきっかけに、学生が歴史的な出来事とどのように向き合うようになったかを論じたものである。なお、本書の編集委員として参加した。
(学術論文)				
1 「千葉のなかの関東大震災」	単著	平成17年3月	東京成徳大学日本伝統文化学科房総地域研究プロジェクト『房総を学ぶ』第1号 95～104頁	本論文は、千葉県における関東大震災の朝鮮人虐殺について論じると共に、震災以前からの朝鮮人差別の構造について言及した。
2 (修士論文)『『婦女新聞』にみる〈良妻賢母〉と〈朝鮮人〉』	単著	平成19年3月	専修大学大学院	本論文は、『婦女新聞』を資料として、1900年代の日本における朝鮮認識を分析した。
3 「1900年代の『婦女新聞』にみる〈日本〉と〈朝鮮〉の子どもたち―構成される自己と他者／〈賢母〉論を背景に―」	単著	平成20年3月	専修大学大学院文学研究科『文研論集』第51号 1～42頁	本論文は、『婦女新聞』を資料とし、近代日本における朝鮮人観を分析した。賢母論を背景にえがかれる朝鮮人の表象を分析した。
4 「1900年代の『婦女新聞』にみる〈朝鮮〉の女性―構成される他者／〈良妻〉論を背景に―」	単著	平成20年3月	専修大学大学院文学研究科『専修史学』第44号 66～96頁	本論文は、『婦女新聞』を資料とし、近代日本における朝鮮人観を分析した。良妻論を背景にえがかれる朝鮮人の表象を分析した。
5 「調査者ととともにたどる関東大震災朝鮮人虐殺事件の地域(1)―高津・大和田新田・萱田を歩く―」	単著	平成20年11月	専修大学歴史学会『専修史学』第45号 133～174頁	本論文は「関東大震災と朝鮮人犠牲者追悼・調査実行委員会」に平成19年1月27日に八千代市の虐殺現場や慰霊碑に関する聞き取り調査を行いそれを資料としてまとめたものである。

6 「関東大震災朝鮮人犠牲者慰霊の碑」が語ること」	单著	平成21年3月	東京成徳大学日本伝統文化学科房総地域研究プロジェクト『房総を学ぶ』第5号 127～133頁	本論文は千葉県八千代市高津観音寺に建立される「関東大震災朝鮮人犠牲者慰霊の碑」について、建立者の想いや経緯について論じた。
7 「調査者とともにとどる関東大震災朝鮮人虐殺事件の地域(2)－「軍郷」習志野を歩く－」	单著	平成22年11月	専修大学歴史学会『専修史学』第49号 113～161頁	本論文は、平成19年9月17日におこなったフィールドワークの聞き取り調査をもとに、習志野収容所、騎兵連隊等を論じたものである。
8 「関東大震災下における〈虐殺〉の語られ方」	单著	平成23年10月	専修大学緑鳳学会『専修総合科学研究』第19号 292～257頁	本論文は、関東大震災後から戦後の歴史学・歴史教育のなかで朝鮮人虐殺の語りの構造を分析した。
9 「千葉県における関東大震災と朝鮮人犠牲者追悼・調査実行委員会の活動2－遺骨の発掘と慰霊碑建立－」	单著	平成23年11月	専修大学歴史学会『専修史学』第51号 110～154頁	本論文は関東大震災時の朝鮮人虐殺の歴史がいかに関東大震災時の朝鮮人虐殺の歴史を背負う人びとの葛藤によって継承されたかを論じた。特に地域研究者の役割は重要さを論じた。
10 「関東大震災下に虐殺されたろう者－近代日本における音声言語のポリテクス－」	单著	平成24年5月	東京社会福祉史研究会『東京社会福祉史研究』第6号 5～26頁	本論文は関東大震災時のろう者の虐殺について実態を分析した。そのなかで東京聾唖学校の卒業生が虐殺されたことが明らかになった。
11 「関東大震災下に虐殺されたろう者とその後のろう教育」	单著	平成24年12月	東京歴史科学研究会『人民の歴史学』第194号 11～22頁	本論文は震災時に虐殺されたろう者とその後のろう教育について論じたものである。
12 「オーラル・ヒストリーによる生きた歴史の再構築」	单著	平成26年9月	日本オーラル・ヒストリー学会『日本オーラル・ヒストリー研究』第10号 29～40頁	本論文はここ10年の記憶の継承と忘却のせめぎあいのなかでオーラル・ヒストリーの可能性について論じたものである。
13 (博士論文)「関東大震災下における虐殺の記憶とその継承」	单著	平成26年9月	専修大学大学院	本論文はこれまでの虐殺研究ではあまり論じられなかった日本人の虐殺やその記憶の継承について論じた。
14 「漫画と特撮番組に描かれた関東大震災下の虐殺」	单著	平成26年11月	歴史教育者協議会『歴史地理教育』2014年11月増刊号 123～131頁	本論文は関東大震災の研究の視野を広げるために、漫画や特撮番組の作品から忘れられた問題をとらえようと提起した。
15 「関東大震災下における虐殺の記憶を継承」	单著	平成27年3月	歴史学研究会『歴史学研究』2014年3月号	本論文は、東日本大震災以降の災害史としての関東大震災に対する人び

<p>するために一東日本大震災・ヘイトスピーチ・関東大震災 90 周年を経て一」</p> <p>16 「想起される関東大震災の記憶—ウルトラマンに描かれた朝鮮人虐殺—」</p> <p>17 「東京都復興記念館の展示資料から考える関東大震災と東京大空襲」</p>	<p>単著</p> <p>単著</p>	<p>平成 27 年 7 月</p> <p>平成 28 年 3 月</p>	<p>43～48 頁</p> <p>ベトナム国家大学ハノイ校人文社会科学大学東洋学部日本研究学科『日本研究論文集』第 5 号 103～122 頁</p> <p>東京都公園協会『都市公園』第 212 号 80～85 頁</p>	<p>との関心と、ヘイトスピーチ後の民族差別としての関東大震災に対する関心を比較して論じたものである。</p> <p>本論文は、関東大震災の朝鮮人虐殺をめぐる記憶の継承について沖縄人を事例に論じたものである。</p> <p>本論文は、復興記念館に所蔵される関東大震災関連の資料と東京大空襲関連の資料から、震災の記憶が空襲時にどのような影響を与えたかを論じたものである。</p>
<p>(その他)</p> <p>1 書評「関口すみ子著『国民道徳とジェンダー—福沢諭吉・井上哲次郎・和辻哲郎』」</p> <p>2 学会報告「関東大震災下に虐殺されたろう者とその後のろう教育」</p> <p>3 書籍紹介「山田昭次著『関東大震災時の朝鮮人虐殺とその後』」</p> <p>4 招待講演「関東大震災下に「誤殺」されたろう者について」</p> <p>5 学会報告「オーラル・ヒストリーによる「生きた」歴史の再構築」</p>	<p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p>	<p>平成 20 年 5 月</p> <p>平成 24 年 4 月</p> <p>平成 24 年 9 月</p> <p>平成 25 年 3 月</p> <p>平成 25 年 7 月</p>	<p>民衆史研究会『民衆史研究』第 75 号 51～62 頁</p> <p>東京歴史科学研究会第 46 回大会、立教大学</p> <p>歴史科学協議会『歴史評論』第 749 号 107 頁</p> <p>関東大震災 90 周年記念集会第 3 回学習会、専修大学</p> <p>JOHA（日本オーラル・ヒストリー・学会）10 周年記念大会「いまオーラル・ヒストリーを問いなおす—ヒストリーとストーリーのはざままで」、立教大学</p>	<p>本書評では、同書は福沢諭吉、井上哲次郎、和辻哲郎から「国民道徳」の言説を分析し、ナショナルな拘束力がいかに強固であるものかを論じた。</p> <p>本報告は関東大震災に虐殺されたろう者とその後のろう教育について論じた。ろう者の死への沈黙は、その後のろう教育と相関性があることを指摘した。なお、本報告では本研究会初の手話通訳をつけて報告した。</p> <p>本書籍紹介では、同書は当時から現代までの長い射程で、虐殺における国家・民衆責任を問うものと紹介した。</p> <p>本報告はこれまでの関東大震災研究は朝鮮人虐殺に重きがあった。その問題を指摘した上で障害者差別の問題について論じた。</p> <p>本報告は JOHA（日本オーラル・ヒストリー・学会）10 周年を記念し、「いまオーラル・ヒストリーを問いなおす—ヒストリーとストーリーのはざままで」というテーマで報告。ここ 10 年の歴史学の議論は国家に包摂されない主体の所在について議論されたがその可能性を実践と共に論じた。</p>

6 コラム「生馬とレン —復興記念館の絵画《大 震記念》に描かれた柳原 白蓮—」	単著	平成26年9 月	首都防災ウィーク実 行委員会『第2回首都 防災ウィーク防災講 演資料集』 51、52頁	本コラムは、東京都復興記念館にある 絵画《大震記念》に描かれている柳原 白蓮について、作者の有島生馬の想い とメッセージを分析して論じた。
7 コラム「軍事郵便か ら見える戦地における一 下士官の読書	単著	平成27年5 月	国立歴史民俗博物館 『歴博』No.189 11頁	本コラムは日中戦争期の軍事郵便を 資料に戦地における一兵士の読書に ついて論じた。
8 コラム『『婦女新聞』 にみる1900年の福田会』	単著	平成27年7 月	福田会『福田会のあゆ み—明治9年からの歴 史を未来へ』 29頁	本コラムは、1900年に福田会育児院 に取材に行った婦女新聞の記者の記 事から当時の様子について言及した ものである。
9 コラム「東京都復興 記念館屋外ギャラリーに 注目！—関東大震災で焼 失した明治屋の自動車 —」	単著	平成27年9 月	首都防災ウィーク実 行委員会『第3回首都 防災ウィーク防災講 演資料集』 43～46頁	本コラムは、東京都復興記念館のわき にある屋外ギャラリーに展示されて いる焼失した自動車のシャーシにつ いて論じたものである。